

あしかみナース

神奈川県立足柄上病院 看護局



2023年3月号

発行元：足柄上病院看護教育科

1年目看護師 入職12ヶ月目を迎えました

ドキドキしながら迎えた入職から12ヶ月目を迎えています。4月には、後輩看護師が入職するため、嬉しい半面、焦る気持ちもある中で、自身の成長と2年目に向けての課題を客観的に捉えることができます。今後も安全・安心な看護の提供ができるあしかみナースとしての活躍を期待していただきます。

1年目看護師にインタビュー♪

Q 自分が成長したと思うことは？

自分で「やります」と言えるようになったことです。初めは自信がなくて、受け身だったけど、今はできることが増えて、他のセクションへのリリーフも任せられるようになりました。

Q 患者さんとの関わりで嬉しかったことは？

名前を覚えてもらえた時とまた話をしたいと言われた時は嬉しかったです。自分の関わり方が良かったのかなと思えました。

Q 大変だったことは？

地域包括ケアの患者さんとコロナ感染症の患者さんを担当する病棟に配属になり、それぞれ優先することが違うので戸惑いました。でも、先輩にアドバイスをもらいながら優先順位を考えて行動できたと思います。

Q 私生活での変化は？

入職当時は「自炊しないと！」と頑張りすぎて疲れてしまったけど、今は「できる時に」と無理しないようにしています。同期と話をしたりしてリフレッシュできているので、仕事と私生活のバランスが取れてきているかなと思います。

Q 2年目に向けて意識したいことは？

もっと自分から発信することを頑張りたいです。自分ができることや考えていることを意識して伝えていきます。



教育担当者とパチリ📷

インターンシップの申し込みはこちらから



他職種から見た看護師

ソーシャルワーカー (MSW)

地域医療連携室は、「医療相談」「看護・保健相談」及び「医療福祉相談」を受けている部署です。看護や保健相談は、主に看護師が対応し、医療福祉に関する相談は医療ソーシャルワーカーが対応しています。患者さんの中には、独居や高齢者夫婦での生活、身寄りのない方がたくさんいます。社会制度を整えるだけでは生活の場に戻れない患者さんが多いので、経管栄養や吸引などの医療処置、自宅療養に関する留意事項など看護の視点での必要な支援も合わせることでより患者さんのニーズに寄り添うことができます。患者さんが安心して生活の場にもどれるように、それぞれの専門性を活かして協働しています。

患者さんの様子を直接確認できる機会が少ないことや訪問看護や施設などから看護師さんとの連携を求められることが多いので、患者さんに一番近い存在の病棟看護師さんと毎日行う退院支援カンファレンスで得る情報にはとても助かっています。

地域医療連携室の看護師さんとも毎日話合いを行い、お互い専門的知識をふまえながら意見交換をしています。患者さんが生活の場に戻れるように看護師さんと共に同じ目標に向かって支援しています。



ソーシャルワーカー

退院支援カンファレンス



地域医療連携室の看護師

社会保障制度などの内容の時は、相談して教えてもらっています。患者さんのニーズに応えるためにソーシャルワーカーとの協力は不可欠です。